

2024 年度特別事業

1. ポストコロナにおける看護学教育推進事業

【目的・背景】

新型コロナウイルス感染症は、2019 年 12 月初旬に中国の武漢市で第 1 例目の感染者が報告されてから、わずか数カ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となり 5 年が経とうとしています。当協会においても、これまで対面で実施してきた研修会や理事会を Web 開催に変更するなど事業活動の変容を余儀なくされました。コロナ禍には、事業活動計画・予算処置の在り方を検討し、2020 年度に「新型コロナウイルス感染症禍に伴う学生支援給付金」、2021 年度に「シミュレーション教育教材の開発」、2022、2023 年度は地区活動を実施してきました。

現在、新型コロナウイルス感染症の位置づけは、感染症法に基づく 2 類相当から 5 類へ変更となりましたが、今後も新興・再興感染症の脅威が続くことが予測されます。加えて、地球温暖化に伴う自然災害の増加などもあり、想定を超えた状況に対応できる教育体制の整備が期待されています。コロナ禍においては、会員校は ICT を活用した看護学教育に取り組んできましたが、今後、臨床現場においても ICT を活用した新しい働き方が推進されています。このようなポストコロナの時代に向けて、私立看護系大学には、デジタル化に対応できる人材養成など、さらなる教育の質向上が求められています。2024 年度、本協会は看護学教育の質の維持向上や地域の健康支援に奮闘している会員校と共に、新たな時代に向けた看護学教育を推進することを目的とし、特別助成事業としてポストコロナにおける看護学教育推進事業を実施します。会員校が助成を受けられる機会は 1 回、金額は 10 万円です。

【使途の例】

- 例 1) 日本看護学教育評価機構へ入会、受審の促進
- 例 2) 看護学教育機関ならびに実習施設を含めた ICT の活用体制の整備
(クラウド型の臨地実習記録システム導入・運用経費への支援等)
- 例 3) 看護学教育のためのシミュレーション機器等の充実整備と教育支援の体制整備
- 例 4) 看護教員の養成と雇用および臨地実習施設における教育要員の配置
- 例 5) CBT 試験の導入、整備のための費用
- 例 6) 学修成果可視化システム等にかかる費用

2. 看護の魅力発信事業

【目的・背景】

文部科学省は理系女子の増加を打ち出しており、この方針は少子化時代において、看護人材確保に影響することが考えられます。実際、看護を志す受験生は減少傾向にあり、各会員校は、学生確保に向けて自校の魅力を発信しなければなりません。私立看護系大学は、大学独自の教育理念に基づき看護学教育を行っていますが、看護学のカリキュラムは保健師助産師看護師法の規定があり、特色を打ち出すことは難しく、また、若者はやりたいことを見つけられない傾向にあると言われてしています。

本協会は、中高生と進路選択の際のキーパーソンである高校の進路指導の教員や保護者を対象に看護学を学ぶ魅力を発信するとともに、会員校の広報活動を支援する看護の魅力発信事業を実施します。

【事業内容】

(1) 動画の作成と SNS での展開

看護職の多様性を表現した動画を作成し、SNS（Instagram、TikTok での広告、YouTube 動画配信、Benesse マナビジョンに広告・バナー設置等）を利用し展開する。多くの高校生が利用する Benesse マナビジョン内にバナーを設置し、本協会ホームページ内の会員校情報ページを經由し各会員校ホームページへの流入を促進させます。各会員校におかれましても、自校のホームページにおいて特色ある看護学教育や受験情報等を広報してください。

(2) 高校の新たな科目「総合的な探究の時間」での探究活動を通じた訴求（高校 1,2 年生対象）

2022 年度から高校の授業に本格導入された「総合的な探究の時間」の副読本冊子『探究×SDGs—地域課題解決とキャリア』（進研アド社）に看護の教育プログラムなどの特色ある取り組みを掲載し、「探究学習」を通じて将来の学びと看護の魅力を接続させることが狙いです。

看護分野は「身近さ」「馴染み深さ」の点から生徒が自ら地域の課題を発見し、解決策を考え実行するための将来の学びとの潜在的な接続可能性があります。生徒が自分にとって関わりの深い課題として看護を探究するきっかけを作り、看護大学の情報にアクセスし看護職を目指す学生を増やすことを目指します。

全国の高校を一つのプラットフォームとし、副読本冊子は教材「探究×SDGs—地域の課題発見のコツ」を採択した学校と全国 4,000 校強の高等学校、中高一貫校、および各教育委員会に配布します。